令和２年度　第２回　全体研究会

「自然教育園をモデルとした天然記念物の保存と活用~ GISを用いた植生管理と環境教育システムの開発~」

■日時：令和３年3月19日（金）　１３時半～１６時

　　　※オンライン形式での実施となります

■開催趣旨：

　2018（平成30）年度から2021（令和３）年度にかけて、国立科学博物館附属自然教育園をモデルに、経験に基づき行われている天然記念物の植生管理について、GIS（地理情報システム）を活用してデータ化し、可視化する植生管理手法を開発する研究を進めています。得られた結果は、研究機関が広く利用できるように、オープンデータ化に向けて評価を行い、さらに、植生管理過程を学習できる環境教育システムを試行的に開発し、文化財である天然記念物の保存と活用のモデルを提案することで、都市化の影響を受ける天然記念物の保存と活用の基本的方針の構築に資することを目指しています。今回、全体研究会を公開で行うことになりました。多くの方との意見交換が可能な場にできればと思っております。

ご多忙とは存じますが、ご参加いただけましたら幸いです。※本研究はJSPS科研費 JP18H00761の助成を受けたものです。

■タイムスケジュール：

13:30-13:40　今年度の計画概要

国立科学博物館　小川義和

13:40-15:10　今年度の成果報告

１）指標種による管理評価に向けた検討

国立科学博物館附属自然教育園　下田彰子

２）植生管理手法の明文化と管理情報のＧＩＳ化

NPO法人地域自然情報ネットワーク　梶並純一郎

３）自然教育園におけるGISデータ公開の可能性

国立科学博物館植物研究部　海老原淳

４）環境教育システム開発

筑波大学芸術系　山田博之

5）環境教育システム試験運用・評価

国立科学博物館附属自然教育園　遠藤拓洋

6）教育プログラム開発

東京農工大学科学博物館 齊藤有里加

15:10-15:50　ディスカッション

15:50-16:00　まとめ